

平成28年度 自己評価表

鳥取敬愛高等学校

中長期目標 (建学の精神)	人格の完成、婦徳の涵養に努め、自主的精神に富める心身の健やかな国民を育成する。	今年度の 重点目標	「学ぶ楽しさを共有しよう」 (1) 自己管理 法令・規則・マナーを遵守し、「健康」・「安全」に留意する (2) 自己研鑽 「高い志」を持ち、切磋琢磨し、お互いに高め合う (3) 自己実現 「体力」「精神力」「学ぶ力」の向上により豊かな人生を築く (4) 意識改革 グローバル化へ対応し、行動を起こす
------------------	---	--------------	---

年度当初					評価結果(3)月		
評価項目	評価の具体的項目	現状認識	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成の状況	評価	改善方策
自己管理	法令・規則・マナーを遵守し、「健康」・「安全」に留意する	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が身だしなみに注意しルールを守った行動ができています。特に、ゼロトレランス指導を導入してからは学校生活の中では規範的な行動ができるようになってきている</li> <li>一部の生徒には家庭環境やこれまでの習慣を理由に学校外で自己管理が不十分な生徒もいるのも事実である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活における規律への意識が醸成され、規則正しい生活と意欲的な学習活動がおこなわれている</li> <li>健康や安全に対する意識が高く、食事や睡眠を大切に規則正しい生活習慣に基づいて学校生活を送ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動すべての場面(ホームルーム・授業・部活動・学校行事)においてゼロトレランス指導を推進し、全職員の目できめ細やかな指導をしていく</li> <li>授業やホームルームを通じて生活リズムの大切さを教えるとともに、生徒に将来の目標(進路)を設定させ、それに向けて自己管理において何が必要かを考えさせることで生徒の変化を期待する</li> <li>保健だよりや校内掲示により季節ごとに注意したい健康問題について喚起し、危険ドラッグや覚せい剤、麻薬の恐ろしさについても周知していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準を明確に提示したことにより、自分自身で身だしなみを遵守することのできる生徒が増えた。</li> <li>生活習慣の乱れ等による保健室の利用は減少傾向にあり、生活リズムの大切さが、認識されつつあると感じられる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会をとらえ、生活リズムの改善を促したい。</li> <li>さらに主体的な取り組みが見られるよう、生徒会などに働きかけるとともに、生徒自身の自律を促していく。</li> </ul>
自己研鑽	「高い志」を持ち、切磋琢磨し、お互いを高め合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導や国際理解教育により、自分や社会の現状を理解し、目標(進路)を設定し、それに向けて努力できる生徒は増えてきている</li> <li>しかし、目標設定に迷っていたり、家庭環境の変化にうまく順応することができにくい生徒は、学習意欲が減退してしまっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試センター試験出願者を増やす</li> <li>国立及び有名私立大学進学者10名</li> <li>海外進学者2名</li> <li>就職希望者全員の内定</li> <li>早期離職者を減らす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解教育を推進し、世界の現状知り、自分の進路をグローバルな視点で考えさせる</li> <li>大学・短大・専門学校などの進学先より講師を招聘し、具体的な進路イメージを持たせる</li> <li>高卒就職の問題点等を保護者および生徒に周知し、奨学金等を利用し可能であれば進学を選択できるように促す</li> <li>徹底した面談活動を通じて、生徒の問題意識向上に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身の進路意識が高くなり、進学を希望する者の割合が80%となっているが、第1志望の実現をめざし、予備校へ行く者も出てきた。</li> <li>ハローワークの協力もあり、就職希望者の内定率は96%となったが、卒業生の早期離職が見られる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、学年・分掌など連携をとりながら、個々の進路実現に向けて、適切な指導を行っていく。</li> <li>高卒者の早期離職について、ミスマッチの解消や勤労観の育成の努力が望まれる。</li> </ul>
自己実現	「体力」「精神力」「学ぶ力」の向上により豊かな人生を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-learningの導入により生徒一人一人の到達度に合わせた学びなおしが可能となり、成績下位の生徒が減少している</li> <li>きめ細かい個別対応により、生徒一人一人の目標に沿った大学進学ができるようになってきている</li> <li>自己肯定感が低く自信を持ってない生徒も少なからずいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを利用した家庭学習について調査研究を行う</li> <li>自己を理解し、自らの将来について主体的に考える力を身につけている</li> <li>1日1時間以上の家庭学習が習慣化されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に加えて数学でも1年生でe-learningを導入し、学びなおしはもちろんのこと家庭での学習にも活用できよう活用推進を図る</li> <li>Classiでの学習時間調査や動画を活用した家庭学習、反転授業を導入し、家庭学習でのネット活用を実践する</li> <li>学習スケジュール帳をもとに面接指導を実施し、継続した学習の大切さを自覚させる</li> <li>体育に空手を導入し、校内での発表会を通じて自己肯定感を持てる体験をさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でのe-learning等の活用はまだまだである。</li> <li>一人ひとりを大切にしたい分かりやすい授業を心がけ、授業満足度は向上しつつある。</li> <li>学習スケジュール帳等を利用して継続的な指導は行われており、主体的学習ができる者が増えつつある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を促すよう、教科等でさらに工夫するとともに、生徒個々の意欲を喚起して、主体的に学習習慣を身につけるよう指導を継続する。</li> <li>生徒の自己理解を促し、自己肯定感が高まるような取組を継続していく。</li> </ul>
意識改革	グローバル化へ対応し、行動を起こす	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸外国の知識・理解が乏しい生徒が多いが、本校が国際理解教育に注力して3年が経過し、敬愛生として国際理解教育に積極的に参加する生徒が増えてきている</li> <li>国際理解教育強化校の生徒としての自覚は芽生えつつある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養・文化力・倫理観・説得力などグローバル社会で信頼される人材(グローバルシティズンシップ)の育成をめざす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修旅行の充実</li> <li>希望者参加型の長期休業の海外研修を学校主体で実施し、職員のグローバル化と生徒の海外への意識改革を図る</li> <li>学校交流など海外の高校生と交流する機会を積極的に取り入れ、同年代の高校生の考え方を知り、自分の現状を見直す契機とする</li> <li>海外経験者や外国人による講演会を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴル・韓国・マレーシア・香港からの訪日団を受け入れ学校交流を実施。全クラスの授業に海外生を参加させるなど異文化交流の機会を設けている。その結果、国際関係を主軸とした進学先を選択する生徒は11名(卒業生の10%)にのぼっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化交流等の体験が一部の生徒だけにとどまらないよう、学校全体で共有できるようにしていきたい。</li> </ul>

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化が見える [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 見直しが必要 [30%以下]